



12V車専用

このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機は、スピード取締り機の前もってお知らせする受信機です。

GPS測位は、特に初めてのときなど、地理的状况により20分以上かかることがあります。障害物や遮へい物などのない視界の良い場所に移動し、車を停車して行ってください。

⚠ 注意

この説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

RGP-2N

GPSアンテナ一体型レーダー探知機

RGP-2N

取扱説明書

目次

はじめに	安全上のご注意	2
	主な特長	6
	ご使用にあたって	7
	各部の名称と働き	8
	電源について	10
取り付けかた	フロントガラスに取り付ける	12
	ダッシュボードに取り付ける	14
使いかた	レーダー編	
	音量/受信感度を設定する	16
	便利な機能について	18
	警報機能について	19
	iDSPについて	20
	GPS編	
	GPS測位機能について	26
	GPS測位機能の使いかた	27
	マイ・エリア警告の使いかた	29
	マイ・トレース・カットの使いかた	30
その他	取締りレーダー波を受信しにくい場合	31
	取締りのミニ知識	32
	故障かな?と思ったら	34
	仕様	36
	アフターサービスについて	37
	無料修理規定	39
	保証書	裏表紙

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

- ⚠** この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
- ⊘** この記号は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗** この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

- ⊘** 水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。
- ⊘** 穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

⚠警告

- ⊘** 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。
- ❗** シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふく…接触不良を起こして火災の原因となります。
- ❗** シガーライターソケットは単独で使う…タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。
- ❗** シガープラグは確実に差し込む…接触不良を起こして火災の原因となります。
- ⊘** 表示された電源電圧以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。
- ⊘** 運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。
- ⊘** 穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。
- ⊘** 機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。

⚠ 警告

-  取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
-  助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない…万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。
-  煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。
-  万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜く…そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。
-  警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。
-  バッテリーに直接接続しない…火災や感電、故障の原因となります。シガープラグコードを使用せずに電源をとる場合は、別売のOP-4をご使用ください。
-  サービスマン以外の方は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

⚠ 注意

-  取り付けは確実に…落ちたりして、ケガの原因となります。
-  車から離れるときは、電源が切れていることを確認する…シガーライターソケットに常時、電源が供給される車種があります。長時間ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。
-  シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らない…コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。
-  お手入れの際は、シガープラグを抜く…感電の原因となります。

本機を使用中のスピード違反に関しては、一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心がけください。

主な特長

1 GPS測位機能

GPS(Global Positioning System)とは、衛星軌道上の24個の人工衛星から発信される電波により、緯度・経度を測定するシステムです。カーナビでお馴染みのこのシステムを利用して、従来のレーダー探知機では警報することのできなかった、ループコイル式や光電管式のオービス、そしてLHシステムも、音声で警告します。

① GPSボイス警告

『ポーン 1km(500m)先にループコイル式オービスがあります』とボイスで警告。

- オービス識別ボイス…ループコイル式・光電管式・LHシステム・Hシステム・レーダー式とオービスの種類を識別して、ボイスで警告。
- 方向識別警報…取締り機が設置されている車線上でのみ、ボイス&光のダブルで警報。反対車線上では警報されません。

② マイ・エリア警告

移動オービスの出没位置など、登録したいエリアを30カ所メモリーでき、近づくとボイスで警告。『ポーン 1km(500m)先にセットしたエリアがあります』

③ マイ・トレース・カット

通勤コースなど、よく通るコースで警告が不要な場合、セットしたエリア内でのGPS警告をカット。『ポーン トレースモードをセットしました』

④ オービスデータ更新対応

ご希望により、最新のオービスデータに更新可能。(半年に1回程度。有料：¥5,000)

2 iDSP*

統合的デジタル信号処理技術(iデジタル)により、超高精度識別を実現。

※integrated Digital Signal Processing Technologyの略です。

① Nシステム検知

「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を検知すると、取締り機とは区別して、Nシステムアラームでお知らせ。[特許出願中]

② ステルス識別

通常波と区別して、音(ニアミスアラーム)&光(アラームランプ)でお知らせ。

③ 新Hシステム対応

新Hシステムに対しても、音(通常の電子音)&光(アラームランプ)でお知らせ。

④ GPS排除

カーナビのモレ電波を識別し、誤警報を排除。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正。[特許 第3044004号]

3 ULTRA/ウルトラ感度

高速道路などの走行に適したウルトラ感度。

- Wスーパーヘテロダイン…スイープオシレーター式 超高精度受信方式。[特許 第1720227号]

- フリップチップinアンテナ…高周波基板へのアンテナ接続による損失を極小に抑えたオリジナルチップ搭載で高感度を実現。[特許 第3229564号]
- X/Kツインバンド…Xバンド/Kバンドの2バンド対応。
- 後方受信…後方からの取締りレーダー波も確実にキャッチ。

4 レーダーアラーム機能

- ① 電子音アラーム…狙い撃ち方式のステルス波を、通常波と区別してニアミスアラームで警報。
- ② Wアラーム方式…音(電子音)&光(アラームランプ)のダブルで警報。
- ③ 接近テンポアップシステム…レーダー式取締り機に近づくに従い、電子音がテンポアップ。
- ④ ミュートボタン…レーダー波の受信を確認後はワンタッチで警報音をカット。

5 自動制御機能

- ① オートディマー…ランプ点灯から、約30秒で自動的にライトダウン。
- ② オートクワイアット…アラームの鳴り始めから、約30秒で自動的にボリュームダウン。

ご使用にあたって

使用上のご注意

- 一部の車種に採用されている金属コーティングの断熱ガラスなどは、電波の透過率が低いため、衛星からの電波を受信しにくく、GPS測位ができない場合や、取締りレーダー波の探知距離が短くなることがあります。
- 周辺の環境によっては、GPSの測位に誤差が生じることがあります。
- 走行環境や測定条件などにより、取締りレーダー波の探知距離が変わることがあります。

各部の名称と働き

レーダー操作部

DCジャック[DC12V](12V車専用)
付属のシガープラグコードを接続します。(10ページ)

電源スイッチ [PWR]
ONにすると電源が入ります。(16ページ)

GPSモードスイッチ[GPS]
GPS受信機能の設定/解除の切り換えができます。(27ページ)

GPSアンテナ部
GPS衛星からの電波を受信します。

マイ・トレースボタン[TRACE]
不要なGPS警報をカットするときに押します。(30ページ)

マイ・エリアボタン[AREA]
自分の登録したいエリアをメモリーするときに押します。(29ページ)

GPS警告ランプ
GPS衛星からの電波をサーチ中およびGPS警報中、赤色に点滅します。(27ページ)

GPS測位ランプ[GPS]
GPS測位中、オレンジ色に点滅します。(27ページ)

パイロット&感度ランプ[PWR/SENS]
電源が入ると点滅します。また、受信感度をランプの色で表示します。(16、17ページ)

レーダー波アンテナ(前面)
取締りレーダー波を受信します。

Nシステムセンサー(前面)
Nシステムを検知します。(23ページ)

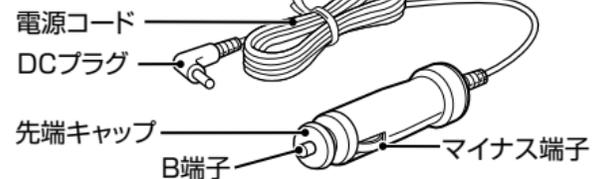
音量ツマミ[VOL]
警報音の音量調節ができます。(16ページ)

受信感度セレクトボタン[SENS]
走行環境や条件に合わせて受信感度が選べます。(17ページ)

テスト&ミュートボタン[T/MUTE]
警報音の確認やミュート機能を使うときに押します。(16、18ページ)

レーダーアラームランプ
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点滅速度が変化します。(19ページ)

シガープラグコード



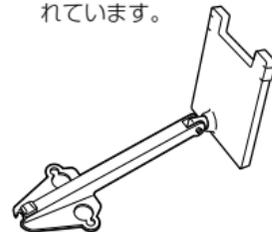
付属品

■ご使用前に付属品をお確かめください。

- マンガンリチウム電池(1)
- シガープラグコード(1)
- 吸着盤(2)
- マジックテープ(1)
- 取扱説明書・保証書(1)



- フロントガラス用ベース/バッテリーカバー兼用ブラケット(1)
※お買い上げ時はセットされています。

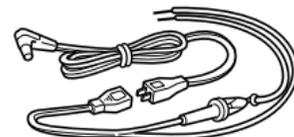


- ダッシュボード用ベース(1)



別売品のお知らせ

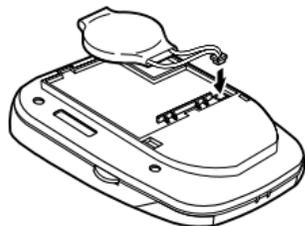
■電源直結コードOP-4(約4m)
1,500円(税別)
シガーライターソケットを使わずに、アクセサリ系端子から直接電源をとることができます。



■交換用マンガンリチウム電池 1,500円(税別)

電源について

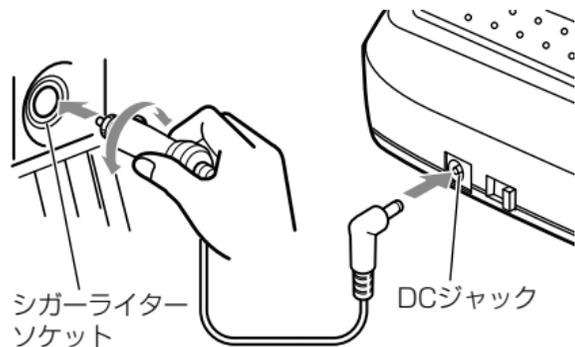
1 付属のマンガンリチウム電池を接続する



本体底面のソケットにコードのプラグを差し込みます。

2 付属のシガープラグコードを、DCジャックと車のシガーライターソケットに差し込む

シガープラグは、2~3回左右にひねりながら差し込みます。



⚠ 警告

-  ぬれた手でシガープラグを抜き差ししないでください。火災や感電、故障の原因となります。
-  シガープラグコードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しないでください。また、傷んだシガープラグコードを使用しないでください。感電やショートによる発火の原因となります。
-  シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふいて確実に差し込んでください。ホコリが付いていたり、不完全な接続をすると、接触不良を起こして火災の原因となります。
-  シガーライターソケットは単独で使用してください。タコ足や分岐して接続すると異常過熱や発火の原因となります。
-  表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
-  万一キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。

⚠ 注意

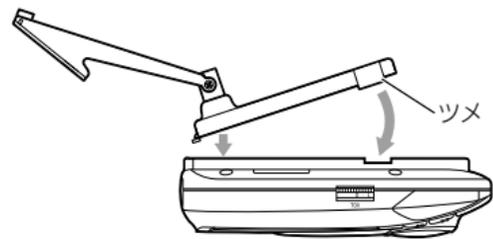
-  シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷がついて感電やショートによる発火の原因となります。
-  お手入れの際には、シガープラグを抜いてください。感電の原因となります。
- シガープラグコードは、必ず付属のものをご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。(9ページ参照)
- 本機をバッテリーなどと直接接続すると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

フロントガラスに取り付ける

GPS衛星からの電波を受信しやすくするため、障害物や遮へい物のない視界のよい場所に取り付けてください。

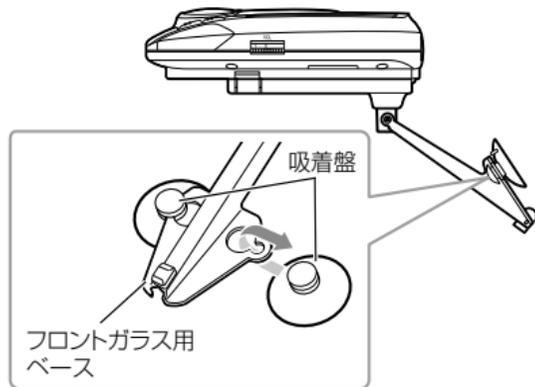


- 1** ブラケットを本体に取り付ける
コードを挟まないように注意して閉めます。



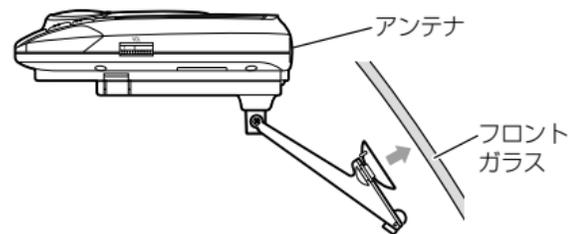
ブラケットを取りはずすときは、両側のツメを押しながら、引き上げて外します。

- 2** フロントガラス用ベースに、吸着盤を取り付ける



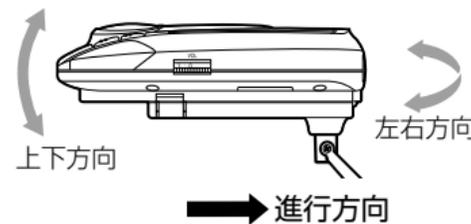
お買い上げ時に、ブラケットとフロントガラス用ベースがセットされています。

- 3** フロントガラス下部に貼り付ける
吸着盤に水などをつけて、フロントガラスの中央下部のGPSの電波を受信しやすい場所に貼り付けます。



アンテナの前に他の機器のアンテナや金属などの障害物がこないように取り付けます。

- 4** 道路に対して、本体を水平にする
アンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整します。



⚠ 警告



運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付けてください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

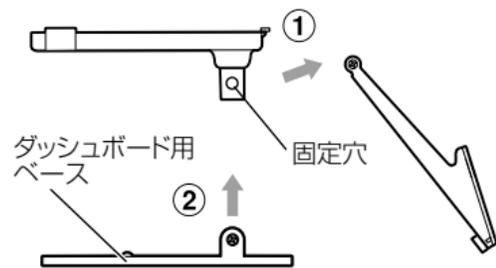
⚠ 注意



取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

ダッシュボードに取り付ける

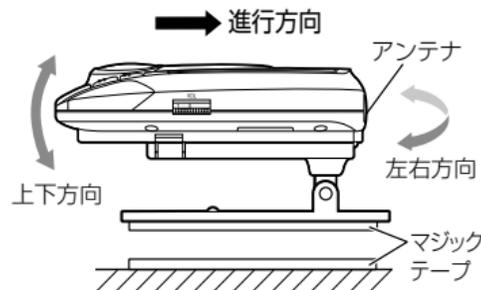
- 1 ブラケットから①フロントガラス用ベースをはずし、②ダッシュボード用ベースを取り付ける



ネジの大きさに合ったドライバーを使用してください。ネジ山のつぶれの原因となります。

- アンテナの前に他の機器のアンテナや、金属などの障害物がこないような場所に取り付けてください。
- あらかじめ、貼る場所のチリや汚れ、脂分をよく落としたあと、慎重に行ってください。貼り直しは、テープの接着力を弱めます。
- 使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

- 2 付属のマジックテープで貼り付け、本体を道路に対して水平に、またアンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整する



- GPSの電波を受信しやすい場所に取り付けてください。

警告

- ! エアバックの上に取り付けしないでください。万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

警告

- ⊘ 助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。シガープラグコードが妨げとなり、エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。
- ! 運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付け・配線を行ってください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

注意

- ⊘ 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

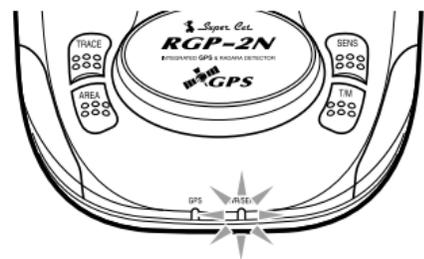
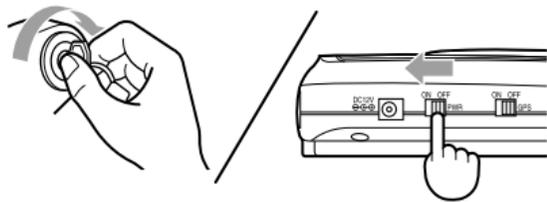
音量/受信感度を設定する

設定は、必ず停車中にパーキングブレーキを確実にかけて行ってください。

つづく

1 電源を入れる

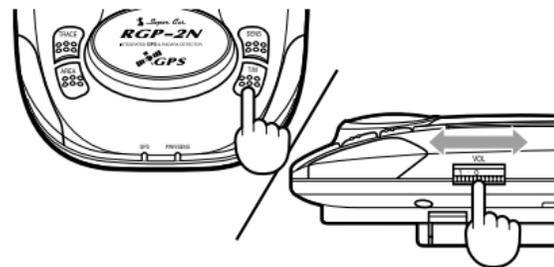
エンジンを始動し、電源スイッチをONにします。



ターン・オン・ビープ(🔊)ピロピロッ…)が鳴り、パイロット&感度ランプが点滅します。

2 音量を調節する

テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ツマミを回します。



押し続けている間はテストモードとなり、警報音が鳴り続けます。

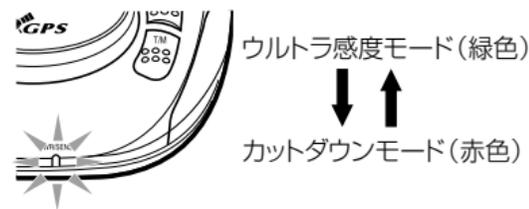
テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。(18ページ参照)

3 受信感度を選ぶ

受信感度セレクトボタンで切り換えます。



パイロット&感度ランプの点滅色は、ボタンを押すたびに切り換わります。



受信感度について

受信感度が高いほど、遠くの電波を受信できますが、取締りレーダー波と同じほかの電波も受信してしまいます。走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。また、受信感度が高いほど、ステルス波などの受信には有効となります。

■ 受信感度の切り換え(マニュアル)

受信感度		走行環境や条件
高い	ウルトラ感度モード	郊外や高速道路
↑		
低い	カットダウンモード	市街地

使いかた/レーダー編

便利な機能について

オートクワイアット/ディマー機能

警報音が約30秒以上続くと、自動的に音量が小さくなり、アラームランプなどのランプ類も暗くなります。

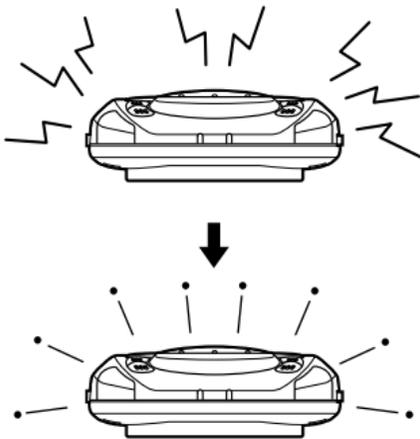
後方受信

iDSPによる超高精度識別およびウルトラ感度の高感度受信により、後方からの取締りレーダー波もシッカリ受信します。

ミュート機能

●取締りレーダー波の発信源の確認ができたら

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。



ターン・オン・ビーブ

電源スイッチを入れたとき、確認音が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。



警報機能について

本機は、Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実に伝えていきます。

Wアラーム方式

音(電子音)と光(アラームランプ)のダブルで警報します。

接近テンポアップシステム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近(電波の強弱)に合わせて変化します。

取締りレーダー波 発信源との距離	
電子音アラーム	断続音から連続音に変化します。
アラームランプ	点滅速度が変化します。

• 警報が続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。(オートクワイアット/ディマー機能)



本機はiDSP / 統合的デジタル信号処理技術 (integrated Digital Signal Processing Technology) により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常の警報音とは違うニアミスアラームでお知らせします。[ステルス識別]

また、新Hシステムの「種類の異なる電波」に対しても通常波と同様に警報します。[新Hシステム対応]

さらに「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を、取締り機とは区別して検知することに業界で初めて成功し、特別なNシステムアラーム(㊦)ピロロピロ…でお知らせします。[Nシステム検知：特許出願中]

またカーナビからのGPSのモレ電波など妨害電波は、的確に識別し、誤警報を排除しています。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正しています。[GPS排除：特許 第3044004号]

※ iDSPを解除することはできません。

※ iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ステルス型取締り機について

ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して、速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

- ニアミスアラームも、ミュート機能により、一時的に消すことができます。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ニアミスアラームが鳴ることがあります。

取締り機 (電波の種類)	警報音
ステルス型取締り機 (必要なときのみ、短時間発射される狙い撃ち的な連続波)	ニアミスアラーム (ピロピロピロピロ…) が鳴ります。
通常の取締り機 (常時発射されている連続波) 新Hシステム<新型オービス> (常時発射されている、種類の異なる電波)	警報音が鳴ります。電子音は断続音から連続音に変化します。

新Hシステムについて

電波を用いる自動速度取締り機(オービス)の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波(周波数は同一)を使用しているため、探知(受信)しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。

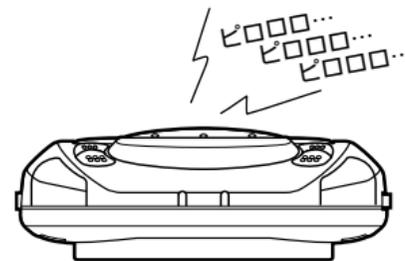


Nシステム検知について

「自動車ナンバー自動読み取り装置」通称『Nシステム』は新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機ではないため、従来機では通過しても何も反応しませんでした。そのため、「新型の取締り機ではないか?」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようです。本機は、このNシステムが発している特殊な信号を、識別および検知し、さらに、スピード違反の取締りとは区別して、Nシステムアラームでお知らせします。[Nシステム検知：特許出願中]

＜Nシステムを検知すると＞

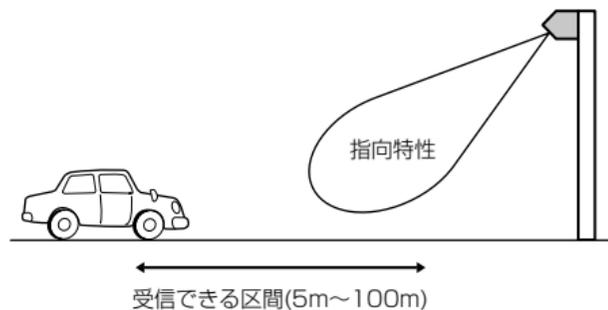
- 『ピロロロ…ピロロロ…ピロロロ…』とNシステムアラームでお知らせします。



- Nシステム検知後、1分以内にもう1度Nシステムを検知しても、Nシステムアラームは鳴りません。
- Nシステム検知中に、取締りレーダー波を受信すると、取締りの警報音が優先されます。

Nシステム検知について(つづき)

- Nシステムは取締り機ではなく、その名のとおりに「自動車ナンバー自動読み取り装置」であり、その信号の指向角が鋭いため、信号を受信できる区間が5m~100mと短くなります。そのため、走行中にNシステムを検知しても、Nシステムアラームが、直前または通り過ぎてからのように感じる場合もあります。



- Nシステムは常時稼働しているとは限りません。稼働していない状態では信号を受信できませんので、Nシステムの検知はできません。
- Nシステムが発しているものと同種の信号を使用している次の機器については、誤検知する場合があります。
 - オービスのカメラ
 - 高速道路入り口のナンバー読み取り装置
 - 駐車場入り口のナンバー読み取り装置
 - Tシステム(旅行時間予告システム)
- 次のようなとき、ごくまれに誤検知する場合があります。
 - 液晶カメラやカーナビの画面に、本機を直接向けたとき
 - 朝日または夕日(地平線または水平線に近い状態)に向かって走行しているとき
 - バイクなどのイグニッションノイズ

GPS排除について

カーナビゲーションの中には、取締りレーダー波と同一周波数帯の電波を漏洩しているものがあります。従来機では、これが原因で警報が鳴りっぱなしになることがありましたが、この電波を安易に排除すると、肝心の取締りレーダー波に反応しないという、相反する問題がありました。本機では、取締りレーダー波にはしっかり反応するよう、取締りレーダー波や自動ドアの電波とのわずかな違いを的確に識別することにより、GPSの漏洩電波のみを自動排除し、誤警報を防止しています。**(自動識別&排除設定機能)**さらに、自動設定後も、一定の間隔で排除設定の内容および温度変化などによる周波数変動の状態を常にチェックし、変化があれば自動的に補正し、誤警報を排除しています。**(自動補正機能) 【特許 第3044004号】**

- ※カーナビゲーションからの影響を排除している場合、受信している電波の識別判定がしにくく、ステルス波に対しても通常の警報音となる場合があります。
- ※自動ドアなど、常に電波の出ている場所でエンジンを始動すると、GPSを排除できない場合があります。このようなときは電波の出ている場所から移動して、再度、本機の電源スイッチを入れ直してください。



GPS測位機能について

GPS(Global Positioning System)とは、衛星軌道上の24個の人工衛星から発信される電波により、緯度・経度を測定するシステムです。カーナビでお馴染みのこのシステムを利用して、従来のレーダー探知機では警報できなかった、ループコイル式やLHシステム、そして光電管式のオービスも、約1km手前からオービスの種類を識別して、音声で警告します。【GPSボイス警告】

また、あらかじめメモリーされているオービスポイントに近づいたときに警告するだけでなく、移動オービスがよく出没する位置や、新たに設置されたオービスポイントなど、最大30カ所登録でき、そこに近づくと音声で警告します。【マイ・エリア警告】

さらに、通勤コースなど、よく通るコースで警告が不要な場合、セットしたエリア内でのGPS警告をカットするマイ・トレース・カットも装備しました。

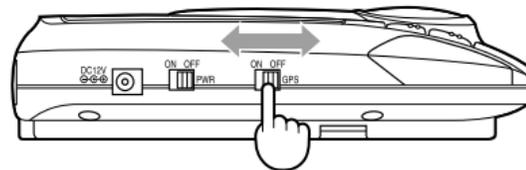


GPS測位機能の使いかた

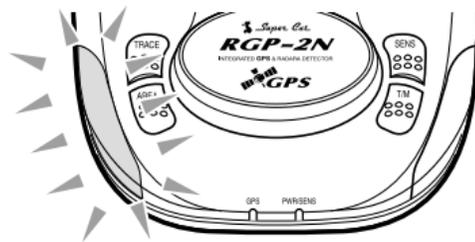
つづく

1 GPSモードをONにする

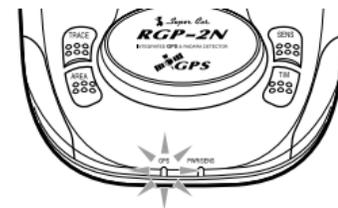
GPSモードスイッチで切り換えます。



ONに切り換えると、GPSの電波をサーチしはじめ、GPS警告ランプが赤色に点滅します。



サーチが終わり、GPS測位機能が働くと、GPS警告ランプは消灯し、GPS測位ランプが点滅します。



通常、サーチが終わるまで、約10秒から約3分かかりますが、はじめてのサーチや、ビルの谷間など、視界の悪い場所では、GPSの電波を受信しにくく、サーチに20分以上時間がかかる場合があります。障害物や遮へい物のない視界の良い場所へ移動し、車を停車して行ってください。

初めての測位のときは、サーチが終わってからも、約15分ほど、そのまま停車を続けると、学習効果により、次からの測位が早くなります。

サーチが終わった後でも、GPSの電波の受信状態が悪くなると、GPS測位ランプは消灯し、GPS警告ランプが点滅します。

使いかた/GPS編

内蔵メモリーに登録されているオービスポイントに近づくと…

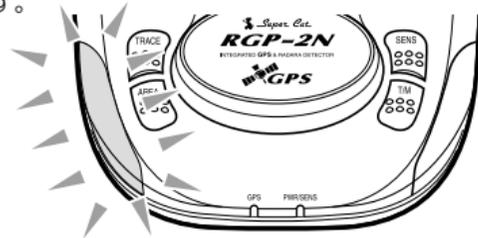
オービスの種類により、音声で識別して警告します。**[GPSボイス警告/オービス識別ボイス]**

ループコイル式 光電管式	『ポーン 1km(500m)先にループコイル式オービスがあります』
LHシステム	『ポーン 1km(500m)先にLHシステム式オービスがあります』
新Hシステム	『ポーン 1km(500m)先にHシステム式オービスがあります』
レーダー式	『ポーン 1km(500m)先にレーダー式オービスがあります』

また、取締り機が設置されている車線上でのみボイスで警告し、反対車線上では警報されません。**[方向識別警報]**

GPS警告ランプが赤色に点滅します。

- ①約1km～500m手前で、GPSボイス警告し、赤色に点滅します。
- ②約500m～直前で、もう一度GPSボイス警告し、赤色の速い点滅をします。**[GPS 2段階警報]**
ただし、GPS測位の状況によっては、1回のみ警報になります。



オービスポイントを通過すると、GPS警告ランプが消灯します。

- 本機はGPS警告よりも、取締りレーダー波受信による警報を優先しますので、GPSボイス警告がされなかったり、中断される場合があります。
- トンネルの中や高架の下などで、GPSの電波を受信できないところでは、測位できませんので、GPSボイス警告がされない場合があります。



1 マイ・エリア登録をする

移動オービスがよく出没する位置や、新たに設置されたオービスポイントなど、自分で登録したい地点でマイ・エリアボタンを押します。



2 マイ・エリア登録を確認する

『ポーン このエリアをセットしました』とボイスでお知らせします。

すでにマイ・エリア登録されていたエリアのとき…
『ポーン このエリアはすでにセットされています』とボイスでお知らせします。

いったん登録したエリアを消去するとき…
マイ・エリア登録されているエリアで、マイ・エリアボタンを約4秒間押ししたままにすると、『ポーン このエリアはすでにセットされています』に続けて、『ポーン このエリアを解除しました』とボイスでお知らせし、消去されます。

内蔵メモリーに登録されているエリアのとき…
『ポーン すでにセットされています』とボイスでお知らせします。

※内蔵メモリーに登録されているエリアは消去できません。
GPS電波を受信できず、登録できなかったとき…
『ポーン GPSを受信できません』とボイスでお知らせします。

登録が30カ所を超えたとき…
マイ・エリア警告の頻度の最も少ないエリアが消去され、新しいエリアが登録されます。

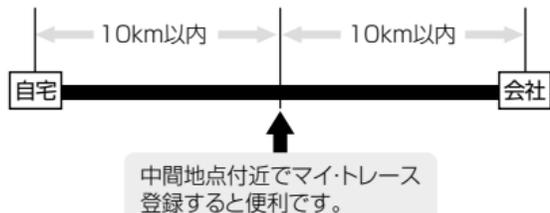
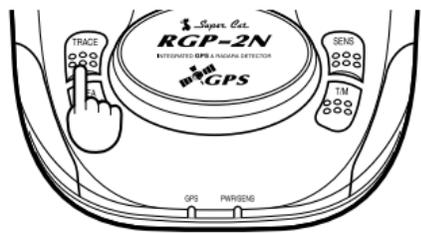
自分で登録したオービスポイントに近づくと…

『ポーン 1km(500m)先にセットしたエリアがあります』とボイスで警告します。
[マイ・エリア警告]

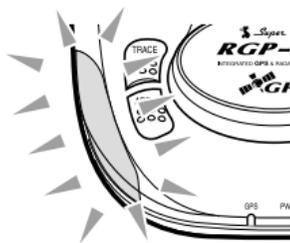


マイ・トレース・カットの使いかた

1 マイ・トレース登録をする
通勤コースなど、お馴染みのコースを走行するときに、GPS警告が不要な地点でマイ・トレースボタンを押します。



2 マイ・トレース登録を確認する
『ポーン トレースモードをセットしました』とボイスでお知らせし、GPS警告ランプがゆっくり点滅します。
(約4秒間隔)



マイ・トレースボタンを押した地点から半径約10kmの範囲内ではGPS警告はされません。また、トレースモードのときは、マイ・エリア登録はできません。

GPS電波を受信できず、登録できなかったとき…
『ポーン GPSを受信できません』とボイスでお知らせします。

マイ・トレース・カットを解除するとき…
もう一度マイ・トレースボタンを押すと解除されます。
『ポーン トレースモードを解除しました』とボイスでお知らせします。

取締りレーダー波を受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、電波を受信しにくいことがあります。

- 前に走行している車(とくに大型車)がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。
- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。



電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。『いつも鳴るから』と安心せずに注意してください。

取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方法

大きく分けて3つの方法があります。

1. 追走して測定する方法 (追尾方式)

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

本機は取締りレーダー波を放射しているものについては後方受信しますが、この追尾方式は電波を出していませんので、受信および警報することはできません。

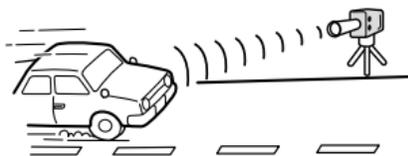
2. 距離と時間で算出する方法 (光電管式、ループコイル式)

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

この方式は取締りレーダー波を放射しておりませんので、従来のレーダー受信機能では、検知できませんが、GPS測位機能により、警報することができます。

3. 電波を使って算出する方法 (レーダー方式)

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化(ドップラー効果)で速度を算出します。



現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流となると思われます。

取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

定置式

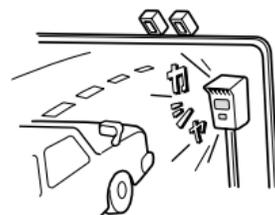
人が測定装置を道路際に設置して行います。

取締りレーダー波は、直進性が強いので、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。



自動速度取締り機(オービスⅢ)

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも使用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

その他

その他

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部にご相談ください。

症状	チェック項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチがONになっていますか。 シガープラグコードが外れていませんか。 シガーライターソケットの内部が汚れて、接触不良を起こしていませんか。シガープラグを2、3回左右にひねりながら差し込み直してください。 シガープラグ内部のヒューズが切れていないか確認してください。切れている場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。
エンジンを止めて、イグニッションキーを抜いても電源が切れない	<ul style="list-style-type: none"> シガーライターソケットの電源が、エンジンの始動/停止と連動して入/切しない車があります。このような車では、エンジンを止めても、シガーライターソケットに電源が供給されますので、本体の電源スイッチで電源を切ってください。
反応しない レーダー警報しない	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていましたか。パイロットランプの点滅を確認してください。 警報機能が正しく働きますか。テスト&ミュートボタンを押して確認してください。 取締りレーダー波が発射されていませんか。計測する瞬間だけ電波を発射するステルス型など、取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスⅢではよくあります) 取締りが「レーダー方式」で行われていませんか。
GPS警告しない	<ul style="list-style-type: none"> GPS測位していましたか。 新たに設置されたオービスではありませんか。

症状	チェック項目
取締りもしていないのにレーダー警報する	<ul style="list-style-type: none"> 取締りレーダー波と同じ電波が他でも使用されています。それらの電波を受信すると警報機能が働くことがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。 ——取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器—— 電波式の自動ドア、防犯センサー 信号機の近くに設置されている車輛通過計測機 NTTのマイクロウェーブ通信回路の一部 気象用レーダー、航空レーダーの一部 他のレーダー探知機の一部 まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け位置を変えてみてください。
警報の途中で警報音が小さくなりランプ類も暗くなる	<ul style="list-style-type: none"> 警報が約30秒以上続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
カーナビゲーションの影響を排除できない	<ul style="list-style-type: none"> 自動ドアなどの常に電波の出ている場所でエンジンを始動した場合、GPSを排除できないことがあります。このようなときは、電波の出ている場所へ移動して、もう1度本機の電源スイッチを入れ直してください。
Nシステムを検知できない	<ul style="list-style-type: none"> Nシステムセンサーがサンバイザーやフロントガラスのスモークなどで、感知しにくくなっていませんか。取り付け場所を変更してみてください。 Nシステムは稼動していましたか。稼動していない場合は、検知できません。 一部の車種に採用されているUVカットガラスにより、検知しにくい場合があります。

仕様

電源電圧	: DC 12V(シガープラグ入力電圧) DC 3.6V(GPSメモリーバックアップ用マンガンリチウム電池)	受信周波数	: [GPS部] 1575.42MHz帯 [レーダー部] Xバンド、Kバンド
消費電流	: 待機時:25mA以下(GPS OFF時) 最大:180mA以下(GPS OFF時)	動作温度範囲	: -10℃~+85℃ (GPS受信部-10℃~+80℃)
受信方式	: [GPS部] 12チャンネル/パラレル受信方式 [レーダー部] スweepオシレーター式ダブルスーパ-ヘテロダイン方式	本体外形寸法	: 78(W)×24(H)×110(D)mm (突起部を除く)
		本体重量	: 140g

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

つづく

1. 保証書(裏表紙参照)

保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。

2. 保証期間

お買い上げの日から1年間です。

3. 対象部分

機器本体(消耗部品を除く)

4. 修理をご依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)、機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。

● 保証期間中のとき

保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで、保証書とともに、機器本体をご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。

● 保証期間が過ぎているとき

まず、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

5. オービスデータの更新

本機にあらかじめ登録されているオービスポイントのデータは、2001年10月現在のものです。新設のオービス等を盛り込んだ最新データへの更新をご要望される場合、有料にて、データ更新させていただきます。お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。

6. アフターサービス等についてご不明の点は

お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。